

2019年度

北海道障害者フライングディスク連盟総会

日時：2019年6月17日（月） 18時00分から
場所：札幌市身体障害者福祉センター

総 会 次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議長選出

4 議案審議

議題1 2018年度事業報告並びに収支決算報告について P1～

議題2 第24回大会に関する報告及び収支決算報告（案）について
P3～

議題3 2018年度会計監査報告について P6

議題4 2019年度事業計画並びに収支予算について P7～

議題5 第25回大会に関する計画及び大会収支予算（案）について
P9～

議題6 役員の新任に伴う補充について

議題7 その他

5 議長退任

6 閉会

2018年度 事業報告 (敬称略)

月 日	内 容 (開 催 地)	備 考
5月22日	三役会 (小樽)	牧野・山崎・佐藤・村上・阿部
5月25日～ 27日	第18回全国障害者スポーツ大会 北海道選手団強化合宿 (江別)	FD監督 阿部 青木
6月3日	第18回札幌市障がい者スポーツ大会 協力 (札幌) すずらんピック2018	阿部・青木 工藤・牧野
6月17日	第3回 札幌呼吸フライングディスク体験会 手稲溪仁会病院	佐藤・工藤
6月18日	会計監査	土田・谷口・村上
6月20日	役員会・総会 (札幌)	
7月28日～ 7月29日	第18回全国地域協会事務局長会議 第22回全日本障害者・高齢者フライングディスク競技大会 (東京)	台風のため中止
8月2日	コープ地域福祉助成交流会	牧野
9月18日	第24回北海道障害者フライングディスク大会競技運営会議 (小樽)	かしわ会2名 連盟 4名
10月5日	飛ベリンピック北海道2018 前日準備 (札幌)	
10月6日	飛ベリンピック北海道2018 (札幌) 兼 第19回全国障害者スポーツ大会選考会	選手357名 スタッフ130名
10月11日～ 16日	第18回全国障害者スポーツ大会 協力 (福井)	FD監督 阿部 青木
10月11日	新発寒小学校 FD体験会 小学4年生60名	牧野
10月21日	ガチパラ (小樽)	牧野 工藤 瀧澤
12月8日	アダプテッドスポーツ研究会 (恵庭)	牧野、近藤、 佐藤、渡辺
1月19日 20日	ガチパラ (函館)	近藤、長谷川

※その他

福島県障害者フライングディスク連盟から北海道胆振東部地震に対して義援金 10,000 円、北海道連盟会員の匿名希望者から支援金 3,000 円を預かり会長が厚真役場へ届けました。

2018年度 北海道障害者フライングディスク連盟収支決算書（案）

2018年4月1日～2019年3月31日

【収入の部】

（単位：円）

科 目	予 算 額 (A)	決 算 額 (B)	差 引 増 減 額 (B-A)	摘 要
個人会費	18,000	15,000	△ 3,000	当年度分 @2,000×6名 12,000 当年度分 @3,000×1名 3,000
団体会費	110,000	110,000	0	当年度 @10,000×11団体 110,000
入会金	0	1,000	1,000	札幌呼吸フライングディスク 1,000
活動助成金	68,000	66,000	△ 2,000	2018年度 66,000
助成金	0	0	0	
事業収入	0	26,000	26,000	指導者養成講習会参加費残金 6,000 障がい児健康運動普及事業 1,000 すずらんピック 4,000 札幌呼吸フライングディスク大会 5,000 ガチパラ！ 10,000
雑収入	5	55,019	55,014	受取利子 19 おたるAtoZ 55,000
当年度収入計①	196,005	273,019	77,014	
前年度繰越金②	520,239	520,239	0	
合計（①+②）	716,244	793,258	77,014	

【支出の部】

科 目	予 算 額 (A)	決 算 額 (B)	差 引 増 減 額 (B-A)	摘 要
事務費	30,000	648	△ 29,352	啓発用DVD 内容確認依頼発送封筒 648
会議費	29,000	16,280	△ 12,720	総会 10,550 三役会 5,730
旅費交通費	130,000	0	△ 130,000	
通信運搬費	26,000	29,456	3,456	啓発用DVD関係 2,705 すずらんピック関連 82 コープさっぽろ助成金関係 250 総会関連 5,028 更新関連 4,081 その他 1,554 携帯電話料金 15,756
事業費	30,000	25,920	△ 4,080	Webサイト更新管理 25,920
印刷製本費	20,000	44,380	24,380	総会資料及び更新案内、会計資料 44,380
雑費	2,500	72,144	69,644	振込手数料 144 用具保管物置賃借料 55,000 アキュラシーゴール修理代ほか 17,000
予備費	0	0	0	
積立金	20,000	20,000	0	
合 計	287,500	208,828	△ 78,672	

今年度収支差額	428,744	584,430	155,686	
次年度繰越金 (収支差額)	428,744	584,430	155,686	現 金 36,356 ゆうちょ銀行普通貯金 568,074
				合 計 604,430

※ 積立金分含む

【特別会計】

科 目	予 算 額 (A)	決 算 額 (B)	差引増減額(A-B)
積立金収入	20,000	20,000	0
当年度収入計①	20,000	20,000	0
前年度繰越金②	20,000	0	20,000
合 計 (① + ②)	40,000	20,000	20,000

※ 30周年記念事業(2024年予定)積立金のため支出は予定せず

第24回北海道障害者フライングディスク大会 事業報告書

事業名	第24回北海道障害者フライングディスク 兼 第19回全国障害者スポーツ大会選考会 【実施種目名】フライングディスク
主催	北海道障害者フライングディスク連盟
共催	(公益財団)北海道障がい者スポーツ協会
目的	フライングディスク競技を通して、障害のある人ない人、男・女を問わず共に参加し、競技スタッフ・ボランティア応援のもと「みんな一緒」に楽しみ、スポーツで汗を流し余暇の充実を図ること。
期間	平成30年10月6日(日) 午前8時15分～午後16時15分
会場	【名称】札幌市コミュニティドーム(略称:つどーむ) 【所在地】札幌市東区栄町885番地1
参加者	選手 357名 (最高齢90歳、最年少12歳)
スタッフ	大会運営スタッフ 128名(審判員、学生ボランティア含む)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・選手とボランティアと競技スタッフ全てが大会を楽しみ、自然な形で交流を行いました。 ・全国障害者スポーツ大会の競技規則に準じアキュラシー競技(5M、7M)とディスタンス競技と団体戦(連盟主催の大会のみ)の3種目を行いました。 ・全国障害者スポーツ大会の選考も兼ねた大会となりました。
大会の成果	<p>フライングディスク競技は全国障害者スポーツ大会の正式種目であり、幅広い年齢層の方々が参加できるスポーツとして定着してきました。</p> <p>今大会はアキュラシーのオープン競技のクラス分けを3M、1.5M、1M、0.5M、アンリミテッドの5つ設けて、昨年より1クラス増やして大会を実施しております。</p> <p>※アンリミテッドとは、紐を引くとディスクが飛ぶ補助具を使用して3Mで行うクラス</p> <p>今年もよさこいのアトラクションには選手も参加し、盛大に盛り上がっていました。クラスを増やしたことで『競技性』のみではなく、『楽しむ場』の両立を出来たのではないかと感じております。今大会は会場の抽選の結果、土曜日開催(今までは日曜日開催)になった事もあり、参加者や運営スタッフの確保に苦慮致しました。</p> <p>大会情報の提供の仕方や、参加の募り方、参加費等も今一度見直し、次年度以降に繋げていきたいと思います。</p>

第24回北海道障害者フライングディスク大会兼第19回全国障害者スポーツ大会選考会決算書（案）

【収入の部】

（単位：円）

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	差引増減額 (B-A)	摘要
参加料収入	915,000	859,000	△ 56,000	会員 @2,000 × 67 名 134,000 非会員 @2,500 × 290 名 725,000
補助金	330,000	430,000	100,000	北海道共同募金会 200,000 北洋銀行スポーツ応援事業 100,000 北海道障がい者スポーツ協会 30,000 札幌北の杜ライオンズクラブ 100,000
広告料	0	30,000	30,000	小南印刷 30,000
連盟自己資金	0	0	0	
弁当代収入	301,000	291,900	△ 9,100	弁当代 @700 × 417 名 291,900
雑収入	0	2	2	受取利子 2
前年度繰越金	0	0	0	
合計	1,546,000	1,610,902	64,902	

【支出の部】

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	差引増減額 (B-A)	摘要
通信運搬費	20,000	11,474	△ 8,526	名義後援返信及び発送 1,566 開催要綱ホームページ掲載通知発送及び郵送発送 3,782 大会スタッフ依頼 4,510 北海道障がい者スポーツ協会助成金申請・報告 174 北海道共同募金会 報告書 250 トロフィー送料 864 広告料請求書 82 写真データ返送 82 領収書 164
事務消耗品費	40,000	53,637	13,637	宛名表示ラベル・封筒 3,220 ラインテープ 35,100 文房具 631 賞状額・封筒 2,960 ポチ袋 986 備品収納ケース 1,706 封筒・インクカートリッジ・手提げ袋・賞状用紙 9,034
賞品等購入費	351,400	338,460	△ 12,940	タオル 182,000 団体戦トロフィー 5,119 団体戦景品 15,641 メダルほか 135,700
備品費	83,000	104,004	21,004	スローイングライン 2セット 20,412 アキュラシーゴールセット 2セット 83,592
旅費交通費	30,500	51,800	21,300	事務局スタッフ宿泊費 51,800
印刷製本費	180,000	169,465	△ 10,535	名義後援ほか印刷代 2,664 参加申込書入力用ほか 1,536 認定証 23,760 大会プログラム 123,012 会計資料印刷代 18,493
会議費	56,000	28,510	△ 27,490	事務局スタッフ打ち合わせ 28,510
借料損料	78,000	74,520	△ 3,480	駐車場 1,500 高速道路 5,620 つど一む 67,400
保険料	50,400	44,555	△ 5,845	469名 44,555
諸謝金	75,000	71,500	△ 3,500	アトラクション 20,000 当日協力スタッフ 51,500
食材料費	431,000	378,092	△ 52,908	準備スタッフ弁当 11,900 コカ・コーラ 82,192 弁当 284,000
業務委託費	128,000	176,014	48,014	感謝状筆耕 3,000 司会業務 43,200 クリーニング 129,814
車輦費	3,000	2,295	△ 705	ガソリン 2,295
雑費	19,700	6,824	△ 12,876	振込手数料 6,624 両替手数料 200
合計	1,546,000	1,511,150	△ 34,850	


収入合計	1,546,000	1,610,902
支出合計	1,546,000	1,511,150
収支差額	0	99,752

2018年度

北海道障害者フライングディスク連盟会計監査報告

2019年6月7日及び2019年6月14日に事務局次長村上敦哉立ち会いのもと、金銭出納簿、証憑書類、預金通帳を監査し、連盟会計、大会会計共に確実に整理保管され、間違いのないことをここに報告いたします。

2019年 6月 7日

監事 谷口 慎一 

2019年 6月14日

監事 土田 めぐみ 

2019年度 事業計画

(敬称略)

月 日	内 容 (開 催 地)	備 考
5月29日	三役会 (小樽)	牧野・村上・佐藤
5月31日～ 6月2日	第18回全国障害者スポーツ大会 北海道選手団強化合宿 (江別)	
6月	会計監査	
6月2日	第19回札幌市障がい者スポーツ大会 協力 (札幌) すずらんピック2019	佐藤・青木・渡邊・浅野・谷口・牧野
6月17日	役員会・総会 (札幌)	
7月	第25回北海道障害者フライングディスク大会競技運営会議 (小樽)	事務局 かしわ会
8月3日4日	第19回全国地域協会事務局長会議 第23回全日本障害者・高齢者フライングディスク競技大会 (東京)	阿部・青木
9月28日	第25回北海道障害者フライングディスク大会準備 (札幌)	
9月29日	第25回北海道障害者フライングディスク記念大会 (札幌) 兼 第20回全国障害者スポーツ大会選考会	
10月10日～ 15日	第19回全国障害者スポーツ大会 協力 (茨城県)	木村純

2019年度 北海道障害者フライングディスク連盟収支予算書（案）

2019年4月1日～2020年3月31日

【収入の部】

（単位：円）

科 目	予 算 額 (A)	前年度決算額 (B)	差 引 増 減 額 (A-B)	摘 要
個人会費	14,000	15,000	△ 1,000	@2,000×7名
団体会費	110,000	110,000	0	@10,000×11団体
入会金	0	1,000	△ 1,000	
活動助成金	66,000	66,000	0	日本障害者フライングディスク連盟より@2,000×33名分
助成金	0	0	0	0
事業収入	0	26,000	△ 26,000	0
雑収入	20	55,019	△ 54,999	受取利子 20
当年度収入計①	190,020	273,019	△ 82,999	
前年度繰越金②	584,430	520,239	64,191	
合計(①+②)	774,450	793,258	△ 18,808	

【支出の部】

科 目	予 算 額 (A)	前年度決算額 (B)	差 引 増 減 額 (A-B)	摘 要
事務費	5,000	648	4,352	消耗品費 5,000
会議費	29,000	16,280	12,720	会計監査 2,000 総会 12,000 三役会 10,000 事務局会議 5,000
旅費交通費	100,000	0	100,000	事務局長会議 50,000 各種派遣 50,000
通信運搬費	31,000	29,456	1,544	郵送代 15,000 携帯電話料金 16,000
事業費	125,920	25,920	100,000	Webサイト管理費 25920 公認指導者養成研修 100,000
印刷製本費	45,000	44,380	620	コピー用紙ほか 45,000
雑費	1,000	72,144	△ 71,144	駐車場代 500 振込手数料ほか 500
予備費	0	0	0	
積立金	20,000	20,000	0	
合 計	336,920	208,828	128,092	

今年度収支差額	437,530	584,430	△ 146,900
次年度繰越金 (収支差額)	437,530	584,430	△ 146,900

【特別会計】

科 目	予 算 額 (A)	前年度決算額(B)	差 引 増 減 額(A-B)
積立金収入	20,000	20,000	0
当年度収入計①	20,000	20,000	0
前年度繰越金②	20,000	0	20,000
合計(①+②)	40,000	20,000	20,000

※ 30周年記念事業(2024年予定)積立金のため支出は予定せず

『飛ベリンピック北海道 2019』

第25回 北海道障害者フライングディスク大会開催要綱

兼 第20回全国障害者スポーツ大会選考会

開催趣旨

フライングディスクは、障害のある人ない人を問わず、子供からお年寄りまで男女が一緒に楽しめる数少ないスポーツとして、全国的に普及し、年々競技人口も増加しています。本大会において障害のある人もない人も、フライングディスクを通じて社会参加への一歩となるようにとの願いから開催されるものです。

また、本大会の競技記録は全国障害者スポーツ大会の選考を兼ねるものとなります。

主 催	北海道障害者フライングディスク連盟
共 催	(公益財団) 北海道障がい者スポーツ協会
協 賛	北海道コカ・コーラボトリング株式会社
後 援	日本障害者フライングディスク連盟 (社福) 北海道共同募金会 (一般社団) 札幌市障がい者スポーツ協会 (一般社団) 北海道知的障がい福祉協会 (一般社団) 北海道手をつなぐ育成会 (社団) 札幌市手をつなぐ育成会 北海道障害者スポーツ指導者協議会 (一般社団) 北海道障がい者職親連合会 (一般社団) 札幌市障がい者スポーツ指導者協議会 (株) 福祉新聞社北海道総局 札幌北の杜ライオンズクラブ (株) 北洋銀行 (順不同)

日 程	令和元年 9月 29日(日) 雨天決行 受付時間 8:15~8:45 競 技 9:40~16:00 開会式 9:00 閉会式 16:15 (競技進行により時間の変更あり)
-----	---

会 場	つどーむ (札幌市コミュニティドーム) 札幌市東区栄町885番地の1 Tel (011) 784-2106
-----	--

参加資格	1) 小学生以上であること。小・中学生は、保護者の承諾書、並びに同行が必要です。 2) フライングディスクを投げられる方であれば、健常者、障害者、どなたでも参加できます。
------	--

競技規則	競技規則は、日本障害者フライングディスク連盟競技規則に準じ北海道障害者フライングディスク連盟本大会競技規則で行います。
------	---

競技時間	午前 ディスタンス競技 午後 アキュラシー競技 (団体戦・個人戦)
------	--------------------------------------

競技種目**【ディスタンス競技】**

全障害を座位、立位に分け、男女別の区分
 座位者女子（レディース・シットイング）
 座位者男子（メンズ・シットイング）
 立位者女子（レディース・スタンディング）
 立位者男子（メンズ・スタンディング）

【アキュラシー競技】

全障害男女同一の区分
 ディスリート・セブン（7m）
 ディスリート・ファイブ（5m）

【アキュラシーオープン競技】

ディスリート・3（3m）
 ディスリート・1.5（1.5m）
 ディスリート・1（1m）
 ディスリート・0.5（0.5m）
 アンリミテッド（3m）

※アンリミテッド競技とは
 ひもを引くとディスクが飛び補助具を
 使用して競技を行います。
 選手は、補助員に仰角・左右角度を指示するこ
 ができます。

【アキュラシー団体競技】

この競技は、本大会に限る競技規則です。
 障害者と同行者（保護者・家族・引率者等）3名1組とする。
 各所属2チームまで参加可。5メートルから一人10投投げ、3名の
 合計数を記録とします。集計の仕方は、アキュラシー競技と同様です。
 ※団体戦のみに参加する保護者・家族・引率者等の参加料は無料とします。

表彰

1) ディスタンス競技 立位・座位 男・女 少年・青年・壮年ごとに1位～3位まで
 入賞とする。 少年組—中学生以下 青年組—15歳以上～40歳まで 壮年組—41歳以上

立位・男子・少年	座位・男子・少年	立位・女子・少年	座位・女子・少年
立位・男子・青年	座位・男子・青年	立位・女子・青年	座位・女子・青年
立位・男子・壮年	座位・男子・壮年	立位・女子・壮年	座位・女子・壮年

2) アキュラシー競技 5m・7mの各組毎に1位～3位までを入賞とする。

同位者は、再投にて順位を決定する。

※再投は5回まで行い、順位が決定しない場合は同順位とする。

オープン競技は順位の設定は行わず、全員に敢闘賞メダルを授与する。

（記録は通常通りおこない結果を掲示いたします）

団体競技は1位～4位までを入賞とする。

3) 参加者全員にディスタンス認定証（記録証）と、参加賞をお渡しします。

参加料

一人2,500円（当連盟会員の方は一人2,000円）

参加料の中にスポーツ損害保険が含まれています。（参加登録者のみ）

※大会プログラムは当日参加人数分お渡しいたします。

参加申込

所定の申込用紙に必要事項を記入し郵送にて申込み下さい。

参加料は ゆうちょ銀行 振り込みにて申込締め切り日までにお支払い下さい。

なお、電話での申込や、現金書留での支払い、大会当日の参加料の持参、
 締め切り以降の受付・申し込み後の選手変更はできませんのでご了承下さい。

申込締め切り

令和元年8月9日（金）

※これ以降の到着分については大会プログラムに掲載できない場合があります。

その他

お弁当について 大会当日のお弁当を斡旋いたします。

「フライングディスク弁当」1個700円（税込み・お茶付）（申込用紙に記入して下さい）

事務局

お問い合わせは 北海道障害者フライングディスク連盟事務局

小樽市桜4-3-1 和光学園内 電話 090-8907-2486

E-MAIL ho_ffd@yahoo.co.jp 事務局長 佐藤

第25回北海道障害者フライングディスク大会兼第20回全国障害者スポーツ大会選考会予算書（案）

【収入の部】

（単位：円）

科 目	本年度予算額 (A)	前年度決算額 (B)	差引増減額 (A-B)	摘 要
参加料収入	915,000	859,000	56,000	会 員 @2,000×120名 240,000 非会員 @2,500×270名 675,000
補助金	30,000	430,000	△ 400,000	北海道障がい者スポーツ協会 30,000
広告料	30,000	30,000	0	
連盟自己資金	282,656	0	282,656	
弁当代収入	301,000	291,900	9,100	弁当代 @700×430個 301,000
雑収入	0	2	△ 2	
前年度繰越金	99,752	0		
合 計	1,658,408	1,610,902	47,506	

【支出の部】

科 目	本年度予算額 (A)	前年度決算額 (B)	差引増減額 (A-B)	摘 要
通信運搬費	20,000	11,474	8,526	宅配便ほか
事務消耗品費	40,000	53,637	△ 13,637	ラインテープほか 40,000
賞品等購入代	351,400	338,460	12,940	団体戦景品 20,000 参加賞（タオル）@270×700枚 189,000 メダル 1・2・3位 @500×80個 40,000 メダル 敢闘賞 @320×320個 102,400
備品費	139,856	104,004	35,852	ノートパソコン・ディスク @1,378×50枚
旅費交通費	30,500	51,800	△ 21,300	事務局宿泊費ほか
印刷製本費	130,000	169,465	△ 39,465	大会プログラム 800部
会議費	29,000	28,510	490	打ち合わせ経費ほか
借料損料	78,000	74,520	3,480	駐車場、つどいむ、高速道路
保険料	50,400	44,555	5,845	選手およびスタッフ @90×560名
諸謝金	75,000	71,500	3,500	アトラクション・当日協力スタッフ
食材料費	431,000	378,092	52,908	選手用飲料品ほか 95,000 弁当 @600×560個 336,000
業務委託費	174,000	176,014	△ 2,014	司会業務委託料 44,000 クリーニング 130,000
車両費	2,500	2,295	205	借り上げトラック燃料
雑費	7,000	6,824	176	振込手数料
合 計	1,558,656	1,511,150	47,506	

収入合計	1,658,408	1,610,902
支出合計	1,558,656	1,511,150
収支差額	99,752	99,752

2019年3月26日

北海道障害者フライングディスク連盟
事務局 様

北海道障害者フライングディスク連盟
会長 牧野誠一

2018年度の公式活動に対する旅費支給について

(調査と暫定の規則の作成及び実際の支給について)

前年度の反省に基づき、事務局に公式に依頼が来た行事に参加した場合に、旅費の支給を可能な範囲で実施したいと思います。

ただ、収入面を考えると全員に満額の支給はできないと思います。

事務局に依頼が来た(または、個人に来た依頼であるが事務局に連絡して公式な行事として認められた)行事参加や講師派遣などに対して旅費の支給をしたいと考えます。

公式と考えられる派遣に対して、出張した連盟員から提出された旅費清算書を事務局で集計し、支給についての基準を暫定ながら定めて支払いをしたいと思います。

※ たとえば、「旅費に要した額の50%を支給する」とか、「公的交通機関で移動したとして計算してその額の30%を支給する」などの基準を定めて支給する、などです。

また、日本連盟や道などから旅費が支給されている場合などで本連盟事務局が承認している場合は、その旅費をそのまま受け取って構わないといった考えもあるかと思っています。

すずらんピック、がちばら、小学校への講師派遣依頼、呼吸フライングディスクなどの依頼をうけて派遣されたような場合で、主催者が旅費を支給してくれなかった場合や謝礼として頂いたが、いったん事務局へそのお金を預けているケースなどについての旅費についてです。

- 各連盟員から上がってきたいわば「立て替えている旅費」に対して、連盟としての公費出張に該当するような事項の旅費の支給がどの程度可能かを検討していただけますか。
- 自家用車使用の場合には、ガソリン代として計算するのか？ 公的交通機関の料金で計算するのか？ そういった問題も出てくるかもしれませんが、事務局で検討して、支給方法を工夫していただけますか？
- 細かな規定が面倒であれば、短距離=500円、中距離=700円、長距離=1,000円といった考え方もよいのかなとも思います。

事務局で大体の方向を検討しつつ、公的出張をした人への調査も実施していただければと思います。そのうえで、複雑でない暫定の規則を定めて、連盟の予算をにらんで、大きな負担増とならない程度の旅費支給ができれば、それが現段階での本連盟の実力かな？ と考えた次第です。よろしくご検討ください。

会長の案を元に事務局として以下のように考えました。

- ①公式と考えられる派遣に対して、出張した連盟員から提出された旅費清算書を事務局で集計する
- ②集計した旅費が年度内で予算に対して赤字にならないのであれば全額支給
- ③赤字になるのであれば半額支給

旅費とは別に毎年 小樽で行っているかしわ会との懇親会、前日準備後の事務局の夕食、かしわ会打ち上げといった飲食を伴うものがありますがこの辺りも整理できていませんでした。

案として「連盟より1人1回2千円までの実費を補助しその金額を超える部分は自己負担」として整理

今後は上記のように整理したいと考えておりますが、当連盟の会計は未収・未払などの処理をしておらず、お金が動いたときに伝票計上する仕組みとなっているため、2018年度の旅費精算は、2019年度の決算となります。

したがって、2018年度分の旅費につきましては、実費を精算することとし、2019年度の旅費より正式に対応したいと考えております。

次年度の活動の方向を決めるため役員の皆様の考えをお聞かせください

1. 連盟の基本方針について

全道大会のプログラムの開催趣旨として記されている文が、本連盟の活動全体の趣旨を明確に述べていると考える。すなわち、障がいの有無を問わず、年齢を問わず、みんなが楽しめるスポーツとして、普及活動や大会を運営していきたいと考えている。

ご意見

- ・ 上記に異論なし
- ・ 連盟の活動趣旨としては良いかと思えます。一方で「障害者フライングディスク連盟」の名称を用いているところですが、活動の趣旨と合わせて検討が必要でしょうか。
- ・ 現在の開催趣旨で良いと思えます。フライングディスクは非常に取り組みやすいスポーツだと思います。最初から結果を追求しなければ、ルールも難しくはないので障がいの重い方、高齢の方にとっても割合簡単に取り組むことができ楽しいスポーツです。
- ・ 同様に考えている。障害の有無にかかわらず、いつでもどこでもだれとでも、楽しめるスポーツであってほしいと願っています。
- ・ フライングディスクは障がいの有無を問わず楽しめる数少ないスポーツなので、連盟の理念は変えずに進めていけばよいと思えます。

2. 2019年度における重点として考えたい事

(1) 役員の補充について

1) 副会長の補充

我妻副会長が辞任されてから、副会長が山崎忠顯氏1名となっている。会長として相談したいことがあっても山崎氏のみには負担をかけることになり、心苦しい。山崎氏のほかに2名の副会長を役員の補充ということで、自薦・他薦を問わずお願いしたい。2019年度は役員改選の年度ではないが、補充は実施したいと思っている。

ご意見

- ・ 補充については良いかと思えます。どなたが良いかは思いつきませんが…。
- ・ 連盟の運営体制として必要性があるのであれば良いと思えます。
- ・ 牧野会長、山崎副会長、そして、事務局関係者により、これまでの運営を共にされてきた方の中から、適任と思われる方を選任された方がよろしいかと思えます。選任に対する根拠が明確になっていれば、誰も反対する方はいないと思えます。
- ・ どなたか良い方がいらっしゃいましたら、人選はおまかせ致します。

2) 理事の補充

北翔大学の石塚誠之氏、長嶋紀子氏、正木英之氏が退任した後の理事が補充されていない。この理事の補充については、「全国規模の大会についてある程度の知識や経験があること」という条件で補充を希望したい。

今までは、阿部議仁事務局次長や青木雄大事務局員に負担がかかることが多かった。負担を分散し、全国規模の大会に参加することについての検討をする意味でも、そのような経験のある人選をお願いしたい。

ご意見

- ・ 補充については異論なしです。
- ・ 経験のある人でも良いと思えますが、これから経験しつつ、運営に関わってもらえる人でも良いかと思

います。

- ・ どなたが理事としての要件を満たし適任なのかが分からないため、それらを分かっている役員、事務局関係者の方が人選すべきかと考えます。
- ・ どなたか良い方がいらっしゃいましたら、人選はおまかせ致します。

(2)親睦行事について

全員が連盟の役員・会員として、大会の運営について協力をしていただきたが、親睦行事として宴会を年に1度くらいは実施してはどうかと考える。大会の反省会を行い、そのあとにパーティを実施してはどうだろうか。宴は最大協力団体である「かしわ会」と合同で実施してはどうだろうか。

ご意見

- ・ 良い考えと思います。
- ・ 役員等と顔を合わせられる機会は少ないのであると良いと思います。
- ・ 良いと思います。
- ・ 親睦行事の企画、実施については、会長、副会長はじめ、事務局関係者で決定し進めていただければと思います。行事に出席するか否かについては、それぞれが判断できれば良いと思います。
- ・ 遠方のため、なかなか参加が難しいが、親睦を深め、フライングディスクを通じた関係が広がっていくことに期待したい。
- ・ 役員、会員相互の親睦を深めるためにも、ぜひ実施して頂きたいと思います。

(3)法人化について

日本障害者フライングディスク連盟が法人化したばかりであり、もう少し様子を見守ったうえで研究を重ね、その後に結論を出したいと考えるが、いかがだろうか。

ご意見

- ・ お任せします。
- ・ 法人化することのメリット、デメリットなどを整理したうえで慎重に進めていただければと思います。
- ・ 待つ様子を見て良いと思います。
- ・ 法人化に伴うメリット、デメリットがありますので、慎重に研究・協議を重ねていった方が良いかと思います。
- ・ もう少し様子を見守ることに賛成です。

(4)連盟の情報発信の有り方のさらなる工夫などの意見をいただきたい。

ご意見

- ・ FBなどを活用すると横のつながりが持てますが、更新作業を行う必要があり、負担となる恐れもありますよね。
- ・ 発信すべき情報の整理と障害がある本人含め情報が取得しやすい工夫が必要かと思います。
- ・ 参加、ボランティアの両面から、中学校、高校、養護学校等への新聞的な情報発信はどうでしょうか。
- ・ ホームページを大いに活用し、連盟の活動や各種大会等の情報を発信し、多くの方に連盟の取り組みとフライングディスクのことを文章ばかりではなく、写真や動画を使い、知ってもらえればと思います。それらの中で、大会参加への呼びかけ、ボランティア募集の呼びかけ等を積極的に進めるべきかと思います。
- ・ 連盟のホームページ作成などは如何でしょうか。

(4) 啓発活動について

1) 大会参加者を増やしたい-1 競技者

全道大会の参加者が少なくなってきた。特に顕著なのが、アキュラシー7mの参加者である。この距離は難しい。アンリミテッドの設定で、手や腕が思うように動かせない人の参加への道は拓いたように思う。障がいのない人が楽しく参加できるコースを開拓してはどうだろうか。例として「スーパーアキュラシー」をオープン競技として設定してはどうか。「アキュラシー7mに参加して〇〇枚以上通過した人が参加できます。参加費は、通常の参加費を支払っていただければ追加料金は無料。距離は、倍の10mから開始して、1枚でも通過した人は、次に15mにチャレンジ。それも通過できれば20m・・・」といった競技種目を設定することで、7mへの参加者を増やせないだろうか。

ご意見

- ・ 参加者の高齢化や競技選択肢の多様化などが背景にあると思います。人口減も含め、仕方ない一面もあるかと思いますが。一方で現存の競技では楽しみきれない人もいると思うので、そうした人々に対して新しいところみは良いと思います。
- ・ 競技間の待ち時間が長いので、同時進行でやれるものもあると良いのではと思っていました。
- ・ 距離を何メートルにするかは別として、「体験コーナー」を設定して実際にチャレンジしてもらい、実施した方の反応を見たり聞いたりして今後の競技種目として考えていけばと思います。やるかやらないかで協議するのではなく、今考えていることを「体験的にやってもらう」ことから始めてみてはどうでしょうか。
- ・ 障がいのない人の参加を促すという点では検討に値すると思います。

2) 大会参加者を増やしたい-2 学校関係者

今日まで、この競技の選手は、福祉施設の所属者が多い。そこで、特別支援学校(旧養護学校など)への啓発活動を行い、参加してもらえるように働きかけたい。パラリンピックも近いのだが、新聞によれば障がいのある人たちが通う学校のクラブ活動は、非常に回数・活動時間共に少ないと言われている。「先生方の研修として」「実際に児童生徒さんたちへの体験時間として」啓発に出向くような活動が設定できないだろうか。

そのためには、役員の中で「時間があれば、出向けますよ」という人たちで「啓発部」を新設するという方法なども考えられないだろうか。

ご意見

- ・ 学校関係者はよいと思います。取り組みの意図を明確に示せるようにしつつ、広げていけるとよいと思います。
- ・ 良いと思います。
- ・ 特別支援学校は、部活動、クラブ活動を実施していないところが3～4割程度あるとの話を聞いています。フライングディスクは取り入れやすいスポーツでもあり、障がいの重い児童、生徒にも取り組みやすいスポーツでもあります。まずは、体験してもらうことにより可能性は広がると思います。
- ・ 参加者を増やすために、生徒に対するアプローチをもっと積極的に行うことで、参加者増と選手層が厚くなると思われる。「1. 連盟の基本方針」にも記載したが、身体障害だけではなく、発達障害も含めた大会運営を広くアピールすることで、今後の展開は大きく変わるとと思われる。特に高等支援(養護)学校は、部活動も多く取り入れており、保健体育の授業だけではなく、部活動の一部にフライングディスクを取り入れていただくよう啓発していくとよいのではないかと。学校側が求めているのは、「無償での外部講師派遣」と「道具の貸し出し」であると思われる
- ・ 特別支援学校への啓発は、いいアイデアだと思います。

3)大会参加者を増やしたい-3 ボランティアスタッフ

スタッフ不足が言われるようになってから久しい。そこで、ボランティアスタッフの掘り起こし活動はできないだろうか。大学・短大・専門学校への働きかけのみならず、高校で「ボランティアクラブ」を設置しているような高校へ出かけて行って講習会を開かせていただき「全道大会の時にはぜひご協力をお願いしたい」と頼んでみる。

2018年度は、北海道科学大学高等学校のボランティアクラブに所属する高校生が1名参加してくれた。顧問の先生にお目にかかり「次年度は早めに行っていただければ、もう少し人数を増やせるかもしれません」と言っていた。また、ある高校に依頼の手紙を送ったところ「日程の都合で今年は無理ですが、次年度はしっかり検討します」という連絡を事務局にいただいた。高校のボランティア開拓は、脈があると思われる。

ご意見

- ・ 学生人口自体の減少が著しい状況です。フライングディスクに限らず各種大会等ボランティアに苦慮しています。提案の方法と合わせ、スポーツ関係団体等との連携も強め、一緒に対応していけるとよいと思います。
- ・ 良いと思います。願わくば、次年度へどんどんつながっていくといいですね。
- ・ 私の施設では、隣町の小さな高校のボランティアクラブの生徒に、毎年、秋まつり（土曜日の開催）のボランティアを依頼してきていただいております。地域の施設との交流ということで、高校生の将来の進路を考えるきっかけとなってくれたらと思っています。学校行事との調整もありますが、来ても来なくても毎年依頼しております。
- ・ ボランティアに参加すると考えたときに、①業務は何か②ルール等を覚える必要があるのか…の2点が大きな悩みになると思われる。講習会の実施は必須であると思われ、その講習内容から「この部分に協力願いたい」と明確にすることで不安感は少なくなるのではないかと。また日程等を早くに伝えることも必須である。

学校関係者、特に生徒の参加を増やすことは、同時に当日引率や応援等の教員も増やすことにつながる。ここから数名でもボランティアに参加していただければ、普及にも参加者増にもつながるのではないかと。ただ、道立高は、勤務時間等の手続きが煩雑であるため、委嘱状を出すなども求められるだろう。

- ・ 大いに脈がありそうです。

4) 大会参加者を増やしたい-4 その他の活動

どこかの会館のようなところを借りて、練習会のようなことができないだろうか？手をつなぐ育成会のどこかの支部の応援を受けて、その支部の行事の一環としてアキュラシーかストラックアウトのような活動ができないだろうか。などなど・・・。

ご意見

- ・ 場所としてはみなみの杜高等養護体育館が適当だと思います
- ・ 本大会だけでなく、練習会やちょっとした交流大会などができるとおもしろいと思います。場所もそれなりに確保できると思います。スタッフが一番大変かもしれません。
- ・ 良いと思います。が、人がいるのかな…活動できるようにスタッフの育成もお願いします。参加するスタッフの重荷にならないようにできるといいとも思います。
- ・ 最終的には大会参加へ結びつけなければなりません。育成会等の活動で終わらないように行事等の一環として定期的開催してもらおうとともに、大会参加への働きかけが必要だと思います。
- ・ 「体験会」などを開催すれば良いと思います。

(5) 全道大会の運営や進行について、参加者の皆様がより一層楽しめるよう工夫した方が良い点や改善点等があれば提案してもらいたい。

- ・ 待ち時間の工夫ができると良いと思います。お祭りの的に行うなど。
- ・ 待っている間に、競技以外の楽しめることがあると良いと思います。そして、スタッフがたくさんとられるのではなく、参加者側からお手伝いしてもらい、一緒に取り組んで楽しめるといいなと思います。
- ・ これまでの全国大会、全道大会やその他の大会等の記録ビデオがあれば、会場内にモニターを用意して、大会に支障が無いような形で映像を見て楽しんでいただけないでしょうか。また、全国大会に参加できる方は限られているので、映像を見て一層頑張る気持ちになってもらえると幸いです。
- ・ 現行のアトラクションは継続するべきだと思います。

3. 長期計画として考えたい事

(1) 渡島地区におけるこのスポーツの振興について

長谷川裕也理事を地区の中心にして、無理なく進められるよう、相談しながら進めていきたい。将来は、北海道の一支部として活動したらよいのか、ひとつの連盟又は協会として早期に独立した方がよいのか、を含めて方向を探っていきたい。

ご意見

- ・ 渡島以外もふくめ北海道全体として考えていけると良いと思います。その中でモデルとして取り組めると良いのではないのでしょうか。
- ・ 渡島地区というより道南でフライングディスクに取り組んでいる施設、事業所等は、私の所以外でほとんど聞いたことがありません。
将来、どのように進めていくのかも大事なことですが、まずは、競技人口をどのように増やしていくか協議が必要です。南北海道知的障がい福祉協会等の利用者さんのスポーツ大会などで取り入れてもらうのも一つの案です。
- ・ 道南地区単体で運営していくには、まだまだ早計である。道南地区での普及活動と、ある一定数の指導者及び事務局担当者が揃わない限りは、道連盟に大きく協力いただかなければならない。
道南地区で3月にミニ講習会を実施したが、現在中心に活動いただいている近藤さんとは、なかなかうまく連携できない。やはり道連盟の考え方や、これまでの歴史等を踏まえて活動いただかないと、私としては協力しがたい面があるのが実情である。ある程度、道連盟からの指示をいただき、それを受けながら設立準備に取り掛かる必要がある。
- ・ 当面北海道の一支部として活動してはどうでしょうか。

(2) 日本連盟吉田氏より旭川もしくは留萌で高齢者・障害者対象のフライングディスクフェスティバルが開催できないかとの提案があり、1年～2年ほど掛け準備をしてはどうか。

- ・ 体制がととのえられれば良いと思います。
- ・ 開催することはとても良いと思います。時間をかけてしっかりと協議が必要です。
- ・ 賛成です。

(3)30周年記念行事について

2019年度は、第25回の大会が開催される。30周年をどのように迎えるのかを、早めに考えて進めたい。記念大会、記念誌発行、貢献した個人・団体の表彰、記念パーティを行うか否か・・・など。今から少しずつ考え、金銭面については、積み立てを続けたい。

ご意見

- ・ 記念誌発行は必要と思います。
 - ・ 記念行事については良いと思います。
 - ・ 先ずは、副会長、理事をしっかりと選任し、その上で会長、副会長、事務局においてたたき台を作っていただきたいと思います。協議するにしても、たたき台、試案があると話し合いをするきっかけとなります。
 - ・ もう30周年ということに感慨深いものがあります。何か記憶に残ることができればと思います。
- ・ **その他 上記以外のことについて ご意見・ご要望があれば自由に記載して下さい。**
- ・ 理事という役職をいただいたのにもかかわらず、大した活動ができておらず、申し訳ありません。道南地区での指導者講習会は、ぜひ2019年度中に開催いただき、普及活動を進めていきたいと考えています。
どのように進めるにしても、やはり道連盟の「支部」で活動することが必要であり、ある程度の指示のもと、活動することが現状では必要です。単独で活動するには、フライングディスクへの正しい理解をさらに進めていかなければなりません。
決して焦らず、長い期間活動できるための助走は長い期間必要です。日本協会からの急かし？もあるかもしれませんが、ぜひ現状を御理解いただき、御支援いただきますようお願いいたします。

2018年度 役員名簿

役職	氏名
顧問	満田 つもる
会長	牧野 誠一
副会長	山崎 忠顯
理事	福田 良
	木村 敏哉
	小林 英夫
	織田 巖
	澤 健治
	岡崎 勇二
	山田 龍二
	竹村 勝行
	正木 英之
	長嶋 紀子
	小嶋 聡
	佐藤 満
	近藤 尚也
	長谷川 裕也
	佐藤 嘉則
監事	土田 めぐみ
	谷口 慎一



2019年度 役員名簿

(事務局案)

役職	氏名	備考
顧問	満田 つもる	北海道障がい者スポーツ指導者協議
参与	山崎 忠顯	元後志報恩会理事長
会長	牧野 誠一	元札幌学院大学
副会長	近藤 尚也	北海道医療大学
	山田 龍二	北海道庁農政部 かしわ会OB
理事	福田 良	カメラマン
	木村 敏哉	生振の里
	小林 英夫	小樽 小林ダンスアカデミー
	織田 巖	社会福祉法人 光の里 理事長
	澤 健治	SAWAウインタースポーツアカデミー
	岡崎 勇二	札幌市身体障害者福祉センター
	小嶋 聡	北海道ハイテクノロジー専門学校
	佐藤 満	札幌学院大学
	長谷川 裕也	北海道北斗高等支援学校
	久保 政則	かしわ会OB
	大山 祐太	北海道教育大学岩見沢校
監事	木村 純一	とうべつチャレンジドクラブ代表
	佐藤 嘉則	事務局長
	土田 めぐみ	
	谷口 慎一	社会福祉法人 溪仁会

【事務局】

役職	氏名
事務局次長	佐藤 嘉則
事務局次長	村上 敦哉
	阿部 議仁
	浅野 翔太
	工藤 直美
	青木 雄大
	渡邊 岳陽

【事務局】

役職	氏名	備考
事務局長	佐藤 嘉則	和光学園
事務局次長	村上 敦哉	塩梅屋
	阿部 議仁	松泉学院
	浅野 翔太	和光学園
	工藤 直美	和光学園
	青木 雄大	松泉学院
	渡邊 岳陽	和光学園
	瀧澤 颯大	江別市スクールソーシャルワーカー
	長嶋 翔太	北海道拓北養護学校教諭